

組織整備2年目、調査部での発見が相次ぐ

2013年度も雨水も過ぎ残すところ一ヶ月余りとなりました。一昨年、組織整備を図ることを目標にして取り組みを進めてきましたが、残すところ僅かになってきました。

この二年間を振り返り、初年度は会員の高齢化に対し系譜継承の確認と新たな会員の発掘を目標にして取り組みました。その結果、若干ではありますが進展が見られました。

調査部・二神種の討死の背景が浮上

一方、調査部では二神氏のご先祖が残し、これまでに確認されている全ての「二神文書」の内容と、発給者や受給者の関係。さらには発給年代から判明できる時代背景の分析など、あらゆる角度からの研究を進めています。それは、二神文書のみ限定したのではなく、他家文書に及ぶ場合もあります。「事務局のうごき」第30号で報告申し上げているように「重見番五郎文書」(大正14年2月東大史料編纂所収録)の記述で二神系図に記載されている謎の部分が見えてきました。応仁の乱(1467)の二年前、伊予国で発生した「寛正伊予の乱」と呼ばれる事件です。この事件に際し細川勝元側で出陣した二神種(実名は異なる)は道後で討ち死にします。(「二神系図伝書略記」)

重見番五郎文書にはその時の具体的な状況や事件の具体的な内容が記述されています。

この他調査関係での新たな発見では ①二神文書に弥五郎宛文書が多く伝承されているが「弥五郎」のホノギを発見 ②正岡子規の高弟、河東碧梧桐の先祖は本島二神系譜からの養子、末弥でその墓石を発見 ③太山寺二神系譜の船ヶ谷二神家代々の通字が源であることを菩提寺過去帳で確認 ④新田系図伝書略記に4件の二神系譜人物の記述を発見 などですが、今後これらの事柄のひとつひとつを関係系譜の方々と資料を照合しながら確定してゆきたいと考えます。

このように私たち二神系譜研究会の活動は、中世史や地方史を研究される方々にとっても少なくない影響を投げかけると共に、系譜調査活動を通じ、有縁社会を再構築する上においても重要な役割を果たしているものと考えます。

二神系譜研究会速報NO.45の送付について

速報NO.45を送付します。前号は昨年初夏に発行し「事務局のうごき」第20号から23号までの内容をご報告しました。今号は第24号から32号までの内容を送付致します。

会員の皆様へ二神会の調査、研究の経過や取り組みについては毎月15日発行の「事務局のうごき」をご覧になられています。

二神会の毎月の動きを知って頂くためにもメールアドレス所持の会員は是非登録を事務局までお願いします。



来年度総会、GW明けに開催予定

今年の総会は例年同様にGW明け頃に松山市北条ふるさと館で開催を予定しています。

なお、今春3月からしまなみ海道沿線で開催を予定している「しまのわ2014」への参加については、参加要請を検討しながら次回の常任理事会で決定する予定です。